て約1億4，000万円余りとなり12月9日交付される予定です。米戸別所得補償モデル事業、水田利活用自給力向上対策併せて12月末までに農家の方の口座に直接振り込まれる交付金額は総額で約2億3，600万円余りとなる予定です。

今年度は米価が大幅に下落することが懸念されていますが、農林水産省の戸別所得補償モデル対策実施要綱によれば、平成22年産の販売価格が国の統計による「標準的な販売価格」11，978円を下回った場合には、その差額を基に算定された10㌃あたりの交付金が3月末までに交付されることになっていて、最終的には平成21年度よりも農家の交付金収入は増えるものと考えています。

農業振興4者連携会議

11月8日に初めての取り組みとして、生産者代表を含めた4者会議を実施しました。

会議の結果、生産者の意見、要望を生の声として聞くことができたので、村として今後の農業振興のためにどのような事業が有効かどうか更に検討を重ね、23年度当初予算に反映していきたいと考えています。

農業後継者定着促進事業

新規就農の方々に農業用機械、施設及び資材の導入に要する経費の一部ついて上限300万を助成する事業に、今年度に申請のあった4人について審査会で助成が決定されました。

村は意欲ある若者たちに大いに期待しているところで、今後も村の基幹産業である農業の担い手支援をしていきたいと考えています。

畜産の状況

世界的な景気の冷えこみにあるため、高級品である牛肉の消費の落ち込みが続き、枝肉価格も大幅に下落しています。この影響で子牛価格も低迷し、村の畜産に大きな打撃を与えています。

本宮の子牛セリ価格を見ると、平均価格は40万円前後で推移し、村の子牛は今年の6月以降で市場平均価格を1万円程度下回っています。

6次産業化関係

村では6次産業化加工施設建設について、平成21年度に大手食品流通メーカー「株式会社久世」等の協力で、「6次産業化を進める生産加工販売実施計画」を策定しました。

この計画では、①短期目標として「契約栽培で原料を生産出荷し加工生産の基盤をつくる」、②中期目標として「協力企業と共同で製品の試作を行う」、③長期目標として「販売先を踏まえた加工施設の建設を進める」という、短期・中期・長期の目標を定め、村の6次産業化を推進することにしました。

村は、計画に基づき土地利用型作物の契約栽培を進める一方、株式会社久世と委託契約を締結し、飯舘村の農畜産物を用いた産品開発業務を進めます。

また、長期目標の加工施設設置については、株式会社久世を第一候補に設置協議を進めました。

加工施設の設置にあたり、村は10人程度の通年雇用が図れる施設とすること、飯舘村産の農畜産物を製品の原料として使用すること、などを条件に提示し協議しました。

この結果、平成24年度事業で施設建設、平成25年操業開始のスケジュールで株式会社久世と協議が進み、建設にかかる具体的検討が進んでいます。村としても、加工施設建設実現に向け最大限の努力を行う考えです。

次に、同じく6次産業化の一環として取り組んできた、味噌加工については村振興公社で製造を進めました。この味噌をもりの駅「まごころ」で販売したところ好評で、生産に関わった加工グループから企業化の提案を受けたため、設置場所や運営方法について検討を進めてきました。

この味噌加工について、今年村内に「ワークスペースいいたて」をオープンさせた、社会福祉法人福島県福祉事業協会から農産加工について取り組みたいとの意向があり、①村の大豆を使用すること、②村内の障害者の雇用と社会参加に活用すること、③味噌加工の指導者として一般村民を登用すること、などを条件に協議しました。

その結果、村民グラウンドへの企業誘致の一環として協議を進め、福祉事業協会と建設に向けて検討を進めているところです。

加工所の建設が実現すれば、年間20トンの生産が見込まれ、村内の大豆栽培面積の拡大、遊休農地解消にもつながると考えられるため村として実現に向けて引き続き協議を進めます。

目黒学院との相互友好協定締結

都市部との交流について、学校法人目黒学院と「都市と農村の子どもたちの健全育成と生きる力を育むこと」を内容とする相互友好協力協定を締結しました。

これは、私立目黒学院中学校の教育旅行および同高校の「キャリアゼミ」研修を村で行ったことから、この取り組みを来年度以降も継続し、相互に子どもたちの教育に関し協力していくことを確認するため締結したものです。

来年度からは同学校の学年カリキュラムに組み込んで実施され、子どもたちの交流、父母と受入れ地域との交流などへの波及が期待されます。

除雪体制

除雪担当者会議を開催し、今年度の除雪体制を整えました。

除雪1次路線は、村がリースする除雪機械と建設業者等の保有する土木作業機械により59路線、104㌔メートル、2次路線は、138路線113㌔メートルを除雪します。

そのうち55路線37㌔メートルの約35％は1次路線と同時に行政区委託で除雪を行います。村が行っている2次除雪路線を、地域内のトラクター等の農業用機械及び車両型重機を利用して実施することで地区内交通の円滑化を図ります。

飯舘中学校前庭整備

9月24日に飯舘中学校前庭整備とスクールバス待合所の竣工式が行われました。

中学校前庭整備は、現在の中学3年生が1年生の時に村長との懇談の中で提案されたもので、デザインコンテストを行い、優秀デザインを基に設計し整備したものです。

前庭は、「やったね実行委員会」が「奏（かなで）の庭」と名づけ、スクールバス待合所は愛称を募集し、「ばすすとっぷ和場（なごみば）」と名付けられました。

福島大学体験入学

11月26日に飯舘中学校3年生63人が福島大学の授業参観、福島大学生の講話、大学内ツアーなどを体験してきました。この事業は、中学生に将来、主体的に進路が選択、決定できる力を育成することを目的に行いました。

「ドリーム号」感謝のつどい

平成19年度に中学校バス（ドリーム号）購入にあたり発行した「村民公募債」の満期を迎え、11月30日に「『ドリーム号』感謝のつどい」を開催し協力者に村民債を償還しました。

つどいでは、飯舘中学校の生徒がドリーム号購入の協力者に感謝の気持ちを述べました。

マラソン教室

9月12日にマラソン指導の小出義雄監督を講師に講演会とマラソン教室を開催しました。当日は、雨天にも関わらず180人あまりの参加者がありました。

第4回市町村対抗軟式野球大会

第4回市町村対抗軟式野球大会が開催され、飯舘村チームは9月19日に田村市チームと対戦しましたが、延長戦の末惜敗しました。

11月27日には、選手の健闘を称え祝賀会と解団式を開催しました。

までいナイト事業

9月30日に3回目となるまでいナイト事業を開催しました。川俣町から中南米音楽のグループを招き、ろうそくの灯りの中で影絵やコンサートなど、までいな暮らしを考えました。

村民体育大会

47回目の村民体育大会を10月11日に開催しました。大勢の村民が地区の名誉を懸けて8つの競技で楽しく体を動かし、健康の喜びを分かち合いました。

第28回総合文化展

28回目の開催となる総合文化展が10月23日と24日の2日間にわたり、公民館及び相農飯舘村などいたて秋まつりの会場内で開催されました。文化展には900点余りの作品が出展されました。また、「までいの里いいたてヨサコイまつり」も行われ、村内外の12のグループによる華麗な踊りが披露され、多くの見物客で賑わいました。

第22回ふくしま駅伝

11月21日に第22回ふくしま駅伝が開催され、飯舘村チームは、総合35位、村の部6位でした。

選手は自分の力を出し切り、村の名誉を背負って懸命にタスキをつなぎました。

健闘祝賀会では、涙を流して報告する選手もあり、選手それぞれに村を思う気持ちが伝わってきました。今後、関係者の協力を得て、継続的な選手の育成に努めたいと考えています。